働きざかり

号外

夢はビッグプロジェクト

ひたむきに ひたすらに

原点を見つめて

平成27年4月13日

夢の実現へスタート

埼玉県議会議員

高橋まさお

県政活動事務所
さいたま市緑区中尾270　873－4369
http://www.marchan.jp
（HP「365日ブログ」 毎日更新中）

県政活動資料

平成27年6月　初夏　号外
（VOL. 202）

地域政治家と情熱

高橋政雄

地方の身近な地域政治家の選挙に際しては、政党・団体等所属の紹介は当然の事として、より大切な事は、その政治家本人の経歴や思想・信条などを通した個人の資質も問わなくてはならない。

当然、選挙以前の日頃からの政治活動が大切ではあるが、広報紙配布や集会などでの情報発信と共に、出来れば政治家本人が地域住民の皆さんと少しでも近い距離に身を置く事が出来るかが鍵となる。

統一地方選挙（県議選）

いきおい選挙戦では、突然に各候補者が入り乱れての熱狂状態の街中となる。それを見方を変えて有権者から観れば、滑稽にさえ見えるかもしれない。

各候補者の熱い訴えを否定するつもりはないが、身近な地域のリーダーを選ぶ大切な機会なのだ。そのリーダーを目指す者は、日頃の毎日が選挙戦であり常に情報発信、人人交流が求められている。私にそれが出来ているか、常に不安にはなる。

普段毎日の活動を大切にするならば、気持ちの高揚感、情熱の維持が求められる。政治家・リーダーを目指す者・続ける者は、情熱が絶対に必要である。

地域を歩く「地元の農業ハウス」

パネルディスカッション（県政報告会）H26.11

次の時代の国家像

高橋政雄

欧米列強の圧力を受けながらも、我が国統治の大変革をもたらした明治維新。先進欧米に追いつき追い越せの血と汗、全国民一丸となっての苦難の四十年。明治時代は、日清・日露と大きな戦いを経て、新たな日本の形「豊かで強い国」を求め築いた時代であった。

その後の四十年、昭和の後継者達が日中戦争や太平洋戦争などを経て、その新たな明治の形を駄目にしてしまった。

大戦の敗戦・終戦後、私達の先輩皆様の並々ならぬ努力によって国の経済復興、そして高度経済成長を成し遂げた。それは戦後の昭和「平和と経済の国」の四十年であった。

今これから、その戦後日本の形を再び私達平成の後継者達が台無しにしないだろうか。平成となって二十七年、あと十年余りで四十年となる。

明治の変革以降百五十年、四十年毎に創造と破壊を繰り返してきた我が国、国民の歴史が進行中である。今を生きる私達には、日本の将来へ、子供達への大いなる責任がある。

決して破壊ではなく、新たな日本の形を強く求めていきたい。

過酷な16時間「鉄道」…揺れる揺れる、雨が漏る

地方の村の交通手段「馬車・オートバイ」

温故知新 ミャンマー

不安な安全・衛生面「船」

高橋まさおの選挙報告

統一地方選挙（埼玉県議会議員選挙）の結果報告

地域の皆様に県議会議員選挙の結果をご報告します。
今後とも、地域皆様と心を一つにして休まず働いて参りますので、意見交流・アイデア提供・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

高橋政雄

得票数		
	高橋まさお	**17,854票（当選）**
	松岡　耕一　氏	14,679票
	佐竹　彰信　氏	1,595票
	藤代　　豊　氏	1,468票

有権者数 91,636　投票者数 38,246　投票率 41.74%
有効投票数 35,596　有効投票率 38.84%
（白票・他 2,650）

家族と共に！ ご近所と共に！ 地域と共に！ 住民ひとり一人と共に！

具体的に政策主張
「地域の夢と実現を語る」

たとえ雨の日も・・・

雪の朝、どんなに寒くとも・・・

三期目スタートしました

選挙戦後の翌日から駅頭あいさつ
「東浦和駅・浦和駅・美園駅東・美園駅西・東川口駅」

何事も全力 長男ゆうすけ 「㈱高橋政雄設計事務所」

父は、「365日まーちゃん」と自ら言っている。その通り家で休む姿を見た事が無い。それに、「そんなもので」という曖昧さが好きではないらしい。何事も全力投球なのだ。

父いわく、「時には疲れて休みたい時がある。いい加減、曖昧に処理したい時もある！」とは言うが、絶対にそんな事はしない人なのだ。またこうも言う、「俺が横になって休む時は、病気で具合が悪いか死んだ時と思う！」

そんな父を口には出さないが、誇りに思い心では尊敬している。父の後ろ姿を追いかけ、いつかは追い越したいと思う。

左から 佑輔・菜美絵・正成

苦しみの連続 長女なみえ 「高橋まさお秘書」

地域の皆様に、父の本当の姿を少し紹介します。それは、毎日毎日が苦しみの連続なのです。父は、決してそんな姿、顔を他人に見せる事はありませんが、苦しみ耐える人生が父の本当の姿なのです。幼少期から青年期、そして大人になっても、かつ今でも苦悩が続いています。

父は言います。
「俺はそんな星の下に生まれてきたんだよ！」
「理不尽な環境、定めに身を任せることはしたくない！」
「自分や仲間の考えを主張したい！」

これからも、父は信念を曲げることなく、理不尽な強きものと苦しみながらも戦い続ける人です。

孤高の人 次男まさなり

「大学生（理系建築科）」

私は、大学で建築を学んでいます。日頃から宿題が多く、ろくに休みも無く徹夜で製図や模型作製などに取り組んでいます。理系建築科の大学は、全日制でもこの様な大変な状態です。

ところが、父はそんな建築科を昼間働きながら夜間部に通い卒業したと聞いて驚いています。今とは社会背景が違うと思いますが、むしろ父の青春時代の方が今よりも困難であったと考えられます。

若い時から、意志の強い信念の人であったのだと思います。正に、父をして「孤高の人」と言えると思います。